

花粉症対策としての『炭酸ガスレーザー装置』の導入。

名古屋記念病院では、2013年8月に花粉症(アレルギー性鼻炎)対策として耳鼻咽喉科に炭酸ガスレーザー装置を導入して治療実績を積上げ、その効用とニーズの高さを実感しています。この治療内容について耳鼻咽喉科部長 清一哲先生と犬飼大輔先生よりお聞きしました。



耳鼻咽喉科部長
清一哲先生

■花粉症の症状と状況について

花粉症とはアレルギー反応の一つで、花粉というアレルゲン(抗原)を吸い込むと目や鼻や咽などの粘膜が腫れ、涙が出る、鼻水が増える、鼻がつまる、咽がかゆくなる、咳が出るなどの症状が現れる疾患です。がんや脳卒中などは大きな病気ですが、仕事のパフォーマンス(やる気)を低下させる病気の中では花粉症は筆頭に挙げられるくらいやっかいな病気です。目や鼻や咽などの肉体的苦痛だけでなく一連の症状による不眠、集中力欠如、イライラ感、食欲不振や精神的に鬱状態になり、家族や周囲の人々にも思わぬ影響を与えてしまうことがあります。

現在日本人の30~35%くらいはアレルギー性鼻炎だといわれ、4人に1人は花粉症だといわれています。症状の軽重はありますが困っている方は多数いらっしゃいます。仕事をしている方は「鼻づまりくらいで」「時間がない」とかで医療機関に行かず、我慢をしたり市販薬を購入して症状緩和をしている方が大半だと思います。

花粉の飛散時期は、スギなどは春が中心で、夏はイネ科、秋はブタクサやヨモギなどです。耳鼻咽喉科の患者さんは2月から4月がいちばん多く、スギ花粉症の患者さんが多いことがわかります。



耳鼻咽喉科
犬飼 大輔先生

花粉症の治療は飲み薬と点眼・点鼻薬での処置がスタートとなります。そして薬で効きの悪い人や、通年性のアレルギー

とか春・夏・秋を通して花粉症が陽性で薬の継続的服用を軽減させたい方とかは外科的治療になります。

以前の外科的治療は、入院して全身麻酔を行い鼻の粘膜を削る手術でしたが、数年前に外来で炭酸ガスレーザーを用いた新しい治療法が外来、今は保険が適用されるようになりました。ただしアレルギーは治る病気ではなく、薬でも外来手術でも入院治療をしても全て対症療法です。

■炭酸ガスレーザー手術治療について

この手術で使うレーザーはレーザーとしては一番マイルドで、照射により鼻粘膜の表面のごくわずかの深さを軽く焼く手術です。ですから外来で行い、最初のガーゼを鼻孔に入れることさえ我慢すれば、殆ど痛みや恐怖心はなく短時間に施術が終わり、直ぐに帰宅できるのが一番のメリットです。聞き分けの良い子であれば小学校低学年児童でも施術した実績があります。

この手術は外来診察室で診察用ユニット椅子に座って行います。最初に麻酔薬を染み込ませたガーゼを鼻に入れます。麻酔処置時間は20分くらいです。内視鏡で観察しながらレーザーを照射し、粘膜を焼くのは片側2~3分で両方で5~6分で終わります。始めから終わりまで30分弱で全て完了します。

この施術は1回だけでも効きますが、月1回、合計3~4回の施術をお勧めします。数回実施すると鼻の粘膜がしっかり固まり鼻づまりや鼻水が殆ど出なくなり、平均で5年間くらい

は楽になります。早い人は2~3年で効かなくなることもあります

が、長期間症状が抑えられる人もいます。また、あらゆるアレルギー性鼻炎全体に効き、春・夏・秋の花粉だけでなくハウスダストやダニなどの通年性アレルギー症状にも効果があります。

この手術による重篤な副作用はほぼ無いといえます。一時的に焼いたところが腫れて1週間ほどは施術前より鼻はつまりますが、1週間後に来院いただき薄い瘡蓋を取った後はスッと鼻が通り鼻水が減ります。時々鼻血が出ることもあります。ティッシュに染むくらいです。



■炭酸ガスレーザー手術の適応について

この手術を受けていただくには、最初の手術の時は同意書をいただき、感染症と出血傾向がないかの血液検査を受けていただきます。

妊娠している方は、局所麻酔薬としてキシロカインや血管収縮薬を使いますので当院では施術を控えています。また、花粉症だと思って来院されても鼻にポリープが出来ていたり鼻中隔が曲がっているような場合は、診察をして決めさせていただきますが、適応でないこともあります。

春の花粉飛散時期に行くと逆に焼いた後の症状が強くなってしまいますので、治療のタイミングとしては花粉症の始まる前の施術をお勧めします。